

1月19日(月)に震災に関する道徳を行いました。「語りかける目」という内容で、神戸の街で被災した少女の悲しい出来事を通して、かけがえのない生命の尊さを理解し、災害への備えについて考えました。1月6日(火)に島根県で大きな地震があり、いつ大きな災害が私たちの生活を一変させてしまうか分からない状況の中、生命の尊さと災害への備えをしっかりと意識できた時間となりました。



授業の感想を紹介します。

- ・地震そのものの被害も大きいですが、その後の火事や病気などで命を落としている人が多いのだと知った。
- ・自然災害はいつどこで起きるかわからないから、どんな時でも落ち着いて行動できるように、日ごろから防災意識を高めようと思った。
- ・今生きているのは当たり前ではないし、ご飯が食べられることに感謝しようと思った。
- ・阪神淡路大震災を体験していないからこそ、その辛さは分からないけれど、分からないから知らないままや分からないで終わらずに、目を向けて、何があったかを知ることが大切なのと思った。
- ・自然災害はいつ起きるかは分からない。しかし、日々の備えて被害を少なくなることができる。前の教訓を大切に、活かすことが大切だと分かった。
- ・今の日常に感謝しないといけないと思った。私たちはまだ大阪の北部地震しか経験しておらず、まだ分からないことが多いので学んでおきたいと思った。
- ・過去の教訓を活かすこと、日ごろから備えることが大切。
- ・自然災害は地球温暖化と違い、人が生み出したわけではなく、いつか起きることだから、生きている人同士で協力したり助けたりすることが大切だと思った。